

9月議会 振興環境委員会 しもおく奈歩議員

しもおく議員は10月4日の振興環境委員会（振興部関係）において、
①中部国際空港の災害対策
②カジノを含むIR誘致
③コミュニティバスについて質問を行いました。



想定外ではすまされない 中部国際空港の災害対策の強化を

しもおく議員は、中部国際空港について関西国際空港での浸水被害を教訓にして現状を見直し、高潮対策の強化を行うべきではないかと問い合わせました。県は、「中部国際空港は伊勢湾台風時の潮位3.29mを想定して地盤の高さは3.79m以上となっている」と答えました。

しもおく議員は、危険な空港島での国際展示場の整備など大型開発はやめるべきで、「少なくとも現時点で慎重な見直しを行うべきだ」と追及しました。県は、「空港施設については、一定の安全性は確保され

ている」と危機感のない答弁でした。

関空では責任のあいまいさが復旧を遅らせました。

中部国際空港の管理運営責任者は、空港島と鉄道橋は中部国際空港株式会社、道路橋は愛知道路コンセッション株式会社となっています。県の管轄は、振興部と建設部にまたがり、責任の分担があいまいで

す。しもおく議員は、責任があいまいになっていることを指摘し、「県として空港島の安全・安心の確保に取り組む」よう要望しました。

カジノ誘致はやめて、暮らしやすい愛知県を

愛知県は、カジノ実施法の成立後、「MICEを核とした国際観光都市」の実現に向けてのアイデア募集説明会を非公開で東京と名古屋で行いました。

しもおく議員は、「なぜ非公開で行ったのか。カジノ事業者は参加したのか。カジノについてのアイデアの提案はあったのか」と問い合わせました。県は、「参加企業の事業戦略に関わるため非公開とした。参加は国内外から72社」と答えるのみでした。

しもおく議員は、「新聞報道では、アイデア募集の内容はカジノを含む構想も『排除するものではない』とされているが事実か」と迫りました。県は、「特定の

業種や分野について除外するようなことはしないとの考えだ」とカジノを含むことを否定しませんでした。

しもおく議員は、カジノを含むIRは検討に入れないという態度を示すべきだと質問。県は、「MICEを核とした国際観光都市の整備機能の具体化をすすめていく」と答弁。県はカジノを隠して、密かに具体化をすすめようとしています。

しもおく議員は、「大規模施設をつくるのではなく、地域の魅力を増やして住みやすく、暮らしやすい愛知県をつくるために予算を使うべきだ」と主張しました。

コミュニティバスへ県の財政支援を

しもおく議員はコミュニティバスについて、「『交通が不便』という県民の切実な声にこたえて県が財政支援を行うべきではないか」と質問しました。県は、「市町村の地域公共交通会議に参加して助言している。地域内の生活交通の確保は市町村が費用負担も含めて対応し、県は広域的・幹線的な路線確保に努め

る」と答弁しました。

しもおく議員は、「地域の足確保・充実に向けて県が主体となって県独自の財政支援を」と再度要望しました。

